

## 討論メモ

令和5年7月18日

### 「CHAT GPT について」

1. 7月には下山健夫さんに、近年注目を集め、利用者も急増している CHAT GPT をはじめとする生成 AI について解説いただきました。

①. CHAT GPT (Generative Pretrained Transformer) は 2015 年に誕生したベンチャー企業オープン AI 社により開発がすすめられ、マイクロソフトとの提携により急速に発展してきた歴史、

②また、生成 AI は社会変革につながる大きな可能性を孕んでいるが、それに伴う様々な課題も抱えていること

③. さらに、雇用や教育に甚大な影響を与える可能性が高いことなどにつき、掲載済みのレジメに沿って説明いただいた。

最後に、AI の開発・利用は、社会への潜在的な影響を考慮し、責任を持って行わなければならない。AI の分野が進化を続ける中、最新の情報を入手し、これらの技術の倫理的・社会的意味合いについて継続的な対話を行うことが重要であるという点を強調頂いた。

2. 引き続き出席者 9 名の間意見交換を行い、下記のような意見が出た。

- ・生成 AI は、クリエイティブな分野で利用が広がりそうだ。
- ・AI が一層実用的なものになりそうだ。
- ・質問に対する回答で終わるのでなく、対話形式で続けられるのがみそだ。
- ・収集したビッグデータを基に回答するとなると、データの集め方にバイアスがかからない配慮が肝心だ。
- ・実際に随筆の創作を CHAT で試してみたが、参考になるいい回答が返ってきた。
- ・関係者でよく意見交換をしるとか、必ずしも CHAT の回答が正しいわけではない、など比較的謙虚な答えが返ってくる。
- ・高齢者には大きな影響はなさそうだが、子供への影響が大きい。
- ・学校での利用はどうあるべきか、慎重に議論すべきだ。
- ・子供たちは AI を上手に使いこなすのではないか。
- ・子供たちに、AI は正しい、との先入観を植え付けられないようにすることが肝心だ。
- ・教育が大変に重要だ。
- ・医療や弁護士は影響が大きいと言われている。

- ・医療では、初期診断程度は問題なくできるそうだ。
- ・画面だけでなく、音声のやり取りによる医療相談も可能だそうだ。
- ・職業格差が広がりそうだ。
- ・あらゆる分野で、比較的単純作業の多い、中間層が打撃を受けるのではないか。
- ・中間層が下に行って底辺が厚くなるのではないか。
- ・貧富の格差が一層拡大することにつながる。
- ・貴族と奴隷の社会が現出するのか。
- ・平等とか、階級とかいう言葉に惑わせられずに、役割分担の社会へ戻せないものか。

・中東の産油国では安い労働力を海外から移入させているようだ。労働力不足の日本も海外から労働力を入れる必要があるのか。

- ・ロボットや AI の活用の余地がある。移民の受け入れは慎重にすべきだ。
- ・欧州では、ドイツ、フランスをはじめ移民の暴動など大問題になっている。
- ・大手メディアの影響力が激減し、ネットの情報力がますます重要になってくる。
- ・マイクロソフトやグーグルなど大手 AI 企業はネットの言論空間を抑えるべ

く激烈な競争を繰り広げている。

・オープン AI のアルトマン社長が最近立て続けに来日した。なぜ日本市場をそこまで大切にするのか、背景を考えて見る必要がある。

・岸田首相が会見していたが、なぜ、ベンチャーの一企業の社長と簡単に面会するのか、面妖だ。

・アルトマン社長の後ろに、マイクロソフトのビル・ゲイツ、その後ろにはロックフェラーがいることを忘れてはならない。要注意ではないか。

・NH が毎朝、AI の声によるニュースを流しているが、どんな狙いがあるのか、要注意だ。

以上